

# 国際水準の研究環境及び基盤の充実・強化 ～科学技術イノベーションの核となる研究基盤～

平成24年度予定額 : 92,939百万円  
(うち復興特別会計 : 1,292百万円)  
(平成23年度予算額 : 97,231百万円)

資料2-1

科学技術・学術審議会 先端研究基盤部会  
研究開発プラットフォーム委員会 (第5回)  
平成24年4月10日

- 東日本大震災からの復旧・復興や、人類のフロンティアの開拓、グリーンイノベーション、ライフイノベーション等の幅広い課題の達成に科学技術が貢献していくためには、研究開発の共通基盤の強化が不可欠。
- 世界に誇る最先端研究施設の整備、共用や、科学技術イノベーションの核となる先端研究基盤技術・設備等の充実、ネットワーク化等を推進。

## ◆世界に誇る最先端の大型研究施設の整備、共用等を推進

### ○最先端大型量子ビーム施設の整備・共用:320億円

我が国が誇る最先端量子ビーム施設である大型放射光施設(SPring-8)、X線自由電子レーザー施設(SACLA)、大強度陽子加速器施設(J-PARC)について、共用の促進・成果の創出を図る。東日本大震災によって低下した研究活動を取り戻し、安定運転を確保しつつ研究環境の充実を図るとともに、SACLAにおける先導的な成果創出に向けた利用研究開発を重点的に推進。



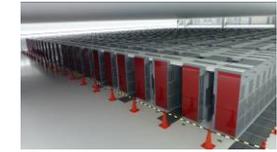
J-PARC



SACLA/SPring-8

### ○革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ(HPCI)の構築:199億円

京速コンピュータ「京」を中核とし、多様な利用ニーズに応える革新的な計算環境(HPCI)を構築するとともに、その利用を推進する。



「京(けい)」コンピュータ

## ◆我が国の先端研究基盤技術・設備等について、戦略的に開発、整備、共用等を推進

### 最先端の共通基盤技術を生み出す

### ○先端計測分析技術・機器開発プログラム:50億円

最先端の計測分析技術・機器の開発を推進。新たに、放射線計測技術など、ターゲットを明確にした開発を開始。



### ○光・量子科学の基盤技術開発:13億円

光・量子科学技術と他分野のニーズを結合させ、産学官の多様な研究者が連携・融合した研究・人材育成拠点を形成し、基盤技術開発を推進。

### ○次世代IT基盤構築のための研究開発:11億円

様々な社会的課題の達成に科学技術が貢献する上で重要な基盤となる情報科学技術の高度化を推進。

### 最先端の基盤施設・設備等を効果的に整備、活用する

### ○ナノテクノロジープラットフォームの構築:18億円

全国の大学・研究機関が所有する、先端的なナノテクノロジー研究設備の共用ネットワークを構築し、画期的な材料開発に挑む産学官の利用者に対して、高度な技術支援とともに利用機会を提供。



930MHz高分解能NMR

### ○ナショナルバイオリソースプロジェクト:14億円

動植物材料等のバイオリソース(生物遺伝資源)等の戦略的な整備、品質の維持管理、安定供給を推進。



### ○最先端研究基盤事業:99億円 ○先端研究施設共用促進事業:13億円

国内外の若手研究者を惹きつける最先端の研究基盤の整備を推進。

外部利用に供するにふさわしい先端研究施設について、産学官に広く共用。